

そよかぜだより

羽村市障害者就労支援センター・エールの報告

初年度に4名の新規就労が実現

大不況の中、多岐にわたる相談

昨年9月に開所した「羽村市障害者就労支援センター・エール」の初年度の活動実績についてお知らせします。

半期の実績ですが、相談件数は下の表の通りです。相談の内容は必ずしも全部が就職するための相談ばかりではありません。すでに就職している人が、職場の問題についての相談などもあります。その場合は職員が職場に行き会社側と相談、交渉することもあります。

また生活支援では、通勤生活リズムの調整とか、対人関係、福祉サービスの利用援助などもあります。中には、余暇の過ごし方、金銭の使い方等の相談もありました。今年3月末の利用登録者総

第84号
発行 2009.5.17
毎月1回発行
社会福祉法人
そよかぜ
<http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/>
連絡先
ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
エール 570-1233
資源回収時のご連絡は「ひばり園」へ

数は151名で、その中から新規に就職を希望する人に対してエールの支援によりみごと就職できた人が4名あります。身体障害の人が1名、知的障害(4度)の人が2名、精神障害の人が1名です。

西多摩で初の支援センターといわれ注目されていたので担当職員は、なんとか期待に応えたいとかなりプレッシャーを感じながらのスタートだったと思います。しかも今、一般経済界はまれに見る大不況で就職活動については超氷河期です。そんな中での実績ですからよいスタートではないかと思っています。

半年の経験によって手探りの状態を乗り越え今年度は落ち着いた活動ができそうです。

4名の就職先、会社名の紹介

- 株式会社イトーヨーカ堂
- 佐藤製菓株式会社
- 株式会社日本クリード
- 株式会社富士フィルムメディア
クレスト

ご協力ありがとうございました。

4月の募金 39,825円

(順不同)

松本 芳子	様	東川 健蔵	様	佐藤 佐夫	様
エイ・アイ	様	加部 妙子	様	田中 明子	様
とまと美容室	様	大野 元雄	様	平岡 知子	様
川村 洋子	様	藤野 和子	様	村野 理子	様
濱野 岬	様	清水 賢	様	下田 コウ	様
山下 暉枝	様	清水 知子	様	田村 由親子	様
袴田 実	様	帯刀 進	様	吉野 満里子	様
山崎 六雄	様	山田 隆章	様	天満 喜代子	様
国本 昭治	様	竹内 照夫	様	橋本 亜紀子	様
大野 素子	様	古沢 奈保美	様	山影 幸子	様
土屋 三枝子	様	永岡 智恵子	様	桜沢 喜作	様
榎本 正代	様	清水 キヨ子	様	長谷川 キヌ子	様
松岡 竹子	様	尾又 恭子	様	関谷 孝子	様
角野 克子	様	角野 満壽子	様	関谷 博	様
本間 正彦	様	田中 稔	様	阿部 郁子	様
平野 嘉子	様	斉藤 忠	様	ア-サロカワノ	様
渡辺 四郎	様	関村 理	様	関村 英希	様
川崎 利男	様	ア-バンベンディックス	様	匿名様(4,303円)	

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-578-0855

くれよん4月の売上げ
937,430円でした。

羽村市内の小中学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さいます。ありがとうございます。

社会福祉法人 そよかぜの 《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール
(ボロは扱っていません)

4月は32,850tでした。金額は487,061円となりました。この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。みなさまのご協力ありがとうございました。

6月は第3日曜日21日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

障害者郵便制度の不正利用事件

悪用して巨額の利益を得る人たち

一方には、必要なのに利用できない人も

障害者団体向けの郵便割引制度が企業のダイレクトメール（DM）広告の発送に悪用された事件が大きく報道されています。この事件の関係者8人が大阪地検特捜部に逮捕されましたが、捜査が進めばさらに逮捕者は増えそうです。8人が関与したとされる不正発送は計約1600万通、免れた郵便料金の総額は約18億円になるそうです。

この割引制度は「心身障害者用低料第3種郵便物制度」といい、昭和51年に当時の厚生省と郵政省が福祉的配慮で、障害者団体が発行する定期刊行物を、支援者や特定の購読者に格安で郵送できるようにと創設したものです。通常のDM広告では1通120円はかかる郵便料金が8円という超格安料金になります。この値段で郵送すれば、もちろん日本郵便はその分だけ赤字になりますが、採算度外視で福祉のためにつくられた制

度です。したがって誰でも利用できるわけではなく、国や自治体が認めた障害者団体の福祉目的の定期刊行物について、団体が日本郵便の承認を受けて利用します。

ところが広告主の企業、広告会社、障害者団体が、障害者団体とは関係のない広告主の顧客へ、大量のDM広告を安く郵送するために悪用して、その利益を三者で分け合っていました。この事件に関与した障害者団体は、実は実態のない名前だけの団体で、その代表者は自分の名前を貸すための名義料として、毎月65万円の給料を受け取っていたそうです。

関与した企業は、家電量販大手の「株式会社ベスト電器」です。大企業が不法行為であることを承知の上でぬれ手に粟の金儲けをしていました。ベスト電器はつい先日、全国の新間に大きな謝罪広告を掲載しました。

全国的に名の知られた一流企業が、福祉制度を食い物にして巨額の利益を上げていたというこの事件は、その報道記事を読むたびに、障害者福祉にかかわる者として残念を通り越して怒りを感じないわけにはいきません。

ところがその後、もつとひどい事実が明るみに出てきました。この事件が最初に報道されてから二ヶ月ほど後に、先に紹介した「心身障害者用低料第3種郵便物」の取扱件数が全国的に急減しました。その減少率は昨年実績にくらべて、なんと93%に達したという事です。つまりベスト電器や偽者の障害者団体と同じようにこの制度を悪用していた者が全利用者のうち93%で、自分にも捜査が及ぶことを恐れて制度利用を取り止めたのです。このことは、本物の障害者団体が正直に利用していたのは、全体のわずか7%に過ぎなかったということ事です。

ここまでくると、もう怒る気力もなくなつて、まさに開いた口が塞がらないという感じでした。せつかく障害者のた

めに設けられた福祉制度が営利目的の企業や団体に寄つてたかつて食い物にされ、そんな状態が全国に蔓延していたのです。その事実が長いあいだ見逃されていたのです。ベスト電器の件だけでも被害総額18億円ですから、もし全国を厳密に捜査して集計したら総額はいくらになるのでしょうか。恐ろしい金額になることは間違いありません。

このような事実が判明すると、日本社会のモラル意識のレベルはまだこの程度のものなのかと思つてしまいます。もしかすると郵便制度は氷山の一角で、他の福祉制度も関係のない者に悪用されている例はたくさんあるのではないかと懸念も出てきます。

そういえば一年ほど前、北海道で生活保護制度が暴力団員に悪用され、病院への通院費という名目で2億円もの大金が不正に取られていた事件がありました。そのとき、これはよほど特殊な例でまさかこんなひどいことは他にはないだろうと思つていました。しかし郵便制度の例を知ると北海道の事件も氷山の一角か

もしれないと思えます。悪用されたために貴重な福祉予算が浪費され、本当に必要な者に行き渡らないことがあるとすれば、問題は深刻過ぎます。

そよかぜは今年の3月に社会福祉法人になりました。これは障害者福祉を行う団体として法に基づくお墨付きを頂いたこととなります。したがって、そよかぜが発行する定期的刊行物があれば、低料第3種郵便制度を利用する資格があります。この「そよかぜだより」は毎月発行していますが、この機関紙は大部分は資源回収の時に古新聞等を出していたに過ぎない家庭に手渡しでお配りしています。郵送しているのは遠方の方など約30通足らずです。郵送部数が少ないので残念ながら第3種郵便物の対象になりません。そこで一枚づつ封筒に入れて80円の切手を貼って郵送しています。もし一通8円で郵送できるならありがたいのですが、第3種郵便物には認可条件があつて、それに合わないので仕方がないとあきらめていました。しかし不正使用の事件を起こした自称・

障害者団体は認可を取るために政治家まで動かしたと報道されています。福祉や障害者に何の関係もない者が営利目的で認可を取り、やすやすと莫大な利益を上げ、本当に必要な者は厳しい条件が壁になつて利用できないと考えるとなんとも複雑な気持ちになります。

このように思つて身近なところを見回してみると、福祉サービスをj利用する資格があるのに利用しないでいる人がたくさんいることに気がつきます。家庭環境が劣悪で悲惨な生活をしてきた人が、見兼ねた職員のアドバイスで生活保護を受給するようになって生活レベルが向上した例もあります。このようにひばり園やあおぞら、あるいは羽村市障害者就労支援センター・エールなどに関わりがある人から必要なサービスを利用することもできます。しかし、地域の中には完全に孤立している障害者はたくさんいます。悪用は許さず、必要な人は確実に利用してほしいと、このたびの事件を見て痛切に感じます。